

こんにちは!  
日本共産党の

# 小山ゆりえです



## 閨戸・中央・黒浜保育園 砂場や遊具の下などの 放射線量を測定

小さな子ども達への放射線の影響が心配されている中で、新日本婦人の会蓮田支部は市にホットスポットの放射線量の測定を要望しました。

10月6日(木)に実施されることになり、消防署職員の測定に私も会員のみなさんといっしょに同行しました。

新しく買った、より精密な機械でも測定し、閨戸・中央・黒浜の3保育園の砂場、雨水の流れる下水、滑り台の下、水飲み場、木の下など合計22カ所を測定しましたが、基準値内の結果にホッと安心しました。

(小山ゆりえ)



【〇〇保育園の砂場、水飲み場、遊具の下などで測定】

放射線量測定結果 (主な地点)		単位マイクロシーベルト		
(測定地点)		5 cm	50cm	1 m
閨戸保育園	園庭の水溜り	0・09	0・07	0・08
	砂場	0・06		
	雨水の流れる下水	0・06	0・07	0・06
中央保育園	水飲み場	0・07		
	雨どい	0・11	0・08	
	水のみ場	0・08		
黒浜保育園	カキの木の下	0・08	0・08	0・07
	玄関	0・07		
	砂場	0・12	0・12	0・10
	木の下	0・08		
	流し台の下	0・07	0・07	0・07
	すべり台	0・07	0・08	0・08

(基準値:1.0 マイクロシーベルト)

《すべて新しく購入した機械の測定値です》

## 子ども医療費・通院も中学校卒業まで無料に

### 「新年度予算の中でも検討」と市長答弁

9月議会でも①子ども医療費について、通院も中学校卒業までの無料化②農業施策の推進では、営農集団への支援・担い手の育成・大型農産物直売所の建設③まちづくり条例の制定に関する、3件の一般質問を行いました。

子ども医療費は来年の1月から入院は中学校卒業まで、通院は小学校卒業まで無料化が拡大されますが、埼玉県内では、中学校卒業までの通院についても64市町村のうち、40市町が無料化しています。

「安心して子育てができる街へ、埼玉一子育て環境の整った街」をめざしている蓮田市です。通院も中学校卒業まで無料にすることが必要です。

質問に対して市長から「新年度予算の中でも十分検討させて頂きたい」との答弁があり、来年度中には実現できるのか?と期待が膨らみます。

# 大災害に命がけで

## 救援活動をした先輩たち

志位委員長による7月の党創立記念講演が感動をよんでいます。1922年、日本共産党は侵略戦争反対と主権在民を掲げて創立。すぐに天皇制権力により激しい弾圧を受けます。翌年におきた関東大震災、昭和8年の三陸大津波、この大災害に党はただちに被災者救援を行います。しかし救援活動のさなかに

多くの党员が逮捕され、虐殺された者もいました。あの厳しい時代にも私達の先輩は「国民の苦難軽減のために献身する」という日本共産党の精神のもと、命がけで被災者を救援した。その伝統は受け継がれ、いま被災地で発揮されていると志位委員長は強調。

今回共産党が集めた義援金8億8千万円は被災自治体や漁協、農協、商工会などに直接届けられました。その時「カネをだせ」という政党はあっても義援金を届けてくれる政党には初めて出会った」と驚きの声が上がった事なども紹介しています。(講演はホームページ、DVDで見ることが出来ます。ご連絡下さい)

### わたしのホットにゆうす



【自宅でも毎日練習しています】

椿山在任の仲間功さんは、名前からわかる通り沖繩出身です。沖繩の伝統楽器「三線(さんしん)」をやっており、免許開伝にむけ、東京の師範のもとに習いに行っています。

試験の合格率は2割以下と大変厳しく、来年夏の2度目の受験めざして練習を重ねています。そのうち、後援会の催しでも披露してもらえると期待しています。(金子記)

【愛用の三線。胴にはニシキヘビの皮がはられています】



【自宅で練習する時は、いつも聴衆となる愛犬リュウ君】

### 黒浜地域のソバの花が見ごろです

「蓮田太陽の里」の裏手にソバ畑が何ヶ所もあり、ソバの花が咲いています。

この時期、黒浜地域では江ヶ崎の休耕田のコスモスもいいますが、このソバ畑も、清楚な感じの白い花が一面に咲いており、違った良さがあります。11月には「そばまつり」が開かれ、刈り取り後の新そばが食べられるそうです。



### あとがき

新日本婦人の会・黒浜班のみなさんといっしょに信州へ平和ツアーに行ってきました。お目当ては無言館です。

若くして戦争でいのちを落とした画家達の作品が展示されています。

戦地に赴く、最後の最後まで絵筆をにぎり、「絵を描きたい」との思いを残し、散っていた若者たちの無念さがひしひしと伝わって来ました。

戦争はむごい、「世界が平和であれ」と願わずにはいられません。(小山ゆりえ)

